

仙遊山 長源寺



仙遊山長源寺 十三世 晉山・結制 記念

晋山に臨んで

長源寺新命 木下理晃

此の度、長源寺檀信徒の皆様、及び近隣の御寺院様方、更には法類法友の方々に到る大勢の皆様のお法愛によって、長源寺十三世住職を拜命披露させていただくことができました。

思い返せば、昭和四十四年の誕辰以来、祖父である十一世再重興素山道暲大和尚、父である十二世泰山良光大和尚の教導の下で仏飯を頂きながら、曾祖母、祖母、母と三代の寺族の慈愛に包まれ、また檀信徒の皆様方の温かい眼差しの下で大きく育てていただいた日々が走馬灯のように瞬に浮かびます。本日此の住き目を迎えるに当たり、現在までに皆様方に頂いた御恩の大きさを改めて痛感するとともに、些少でもその御恩に報いることができるよう、心新たにしております。もとより浅学非才の身ではありませんが、法灯を継承し、正法興隆、仙遊山長源寺護持発展のために一命を賭す所存でございますので、寺族、二人の弟子ともども何卒格別の御法愛、御教導を賜りますようお願い申し上げます。

唯一惜しむらくは、本来であれば長源寺東堂としてこの法要に随喜しているはずの師匠に、この姿を見てもらえなかったことでしょうか。私が長源寺後代としての途を歩むことを我が事のように喜んでくれた師匠であれば、この晴れの姿をどれほど喜んでくれたかと思うと無念でなりません。しかし、本師釈迦牟尼仏大和尚が涅槃に入り給わんとするときに御垂示された「自灯明、法灯明」の言葉に胸に、亡き師匠の目指したその先を見つめ、師匠の背を追いかけて今後も歩き続けていきたいと思っております。

末筆になりましたが、平成二十二年の春、任期満了で役員改選の時期であったにも拘らず、突然の師匠遷化で茫然自失の私を見かね、長源寺護持のために自ら進んで留任、或いは進んで新たに役員就任して下さいました護持会長の米谷修氏、副会長の泉哲治朗氏をはじめ、理事の紺田進氏、亀田洋氏、元井義文氏の皆様には心より御礼申し上げます。皆様方の御力添えがなければ、今日の日を迎えることができなかつたと言っても過言ではありません。本当にありがとうございました。



成所作智 銘曰 仙遊山寶塔現成直向此中轉法輪只願江湖參禮客仰瞻這箇了全身

平等性智 經曰 心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃
平成二十六年四月二十七日 当山十三世大真理晃和尚結會之日建立

大圓鏡智 恭惟 本勤修祝國開堂專祈國富昌平群生和樂十方檀那福壽長久至德千祥
平等性智 經曰 心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃

新命方丈様を迎えるにあたって

長源寺護持会 会長 米谷 修

役員一同

本日、ここに本寺 養源寺大方丈様を西堂に拝請し、近隣寺院方丈様方の御随喜を仰ぎ、當山十三世住職として、大真理晃和尚をお迎え申し上げ、晋山・結制の盛儀が挙行できますことは、當山檀信徒にとりまして無上の法悦でございます。

この度、新たに住職の任に就かれます新命 大真理晃和尚様は、平成二十二年一月に御遷化された長源寺十二世 泰山良光大和尚の御法嗣でありまして、師弟の間に於いてその法灯を継承して頂くことは、檀信徒にとりまして何よりの悦びでございます。

この嘉辰にあたり、檀信徒一同、今日まで當山を護持してこられた長源寺御開山様、並びに歴代住職大和尚様方、更には檀信徒各家の御先祖様方の御恩にお酬い致すべく、一層積功累徳し、以て子孫の清福を祈念し、自らの修行と當山の護持発展に一層邁進致します覚悟でございます。どうか宜しくお導きの程、お願い申し上げます。



仙遊山長源寺晋山結制法要差定

平成二十六年四月二十六日(土)

□先住忌 〳十五時より

- 一、殿鐘三会大衆上殿(三会中三拜)
- 一、七下鐘導師上殿
- 一、鼓一通
- 一、上香三拜
- 一、献茶湯三拜(傳供)
- 一、中揖三拜
- 一、鼓三下
- 一、拈香・法語
- 一、誦經(参同契・宝鏡三昧)行道一匝〳全員焼香
- 一、回向
- 一、普同三拜
- 一、謝拜
- 一、退堂

□首座入寺式 〳十六時より

- 一、殿鐘一会 大衆入堂
- 一、七下鐘 住持入堂
- 一、版三下
- 一、首座外單就位
- 一、維那巡堂
- 一、維那白槌・告報
- 一、知事致語
- 一、首座致語
- 一、首座巡堂・就位

【先住忌】

平成十年五月九日に遷化された長源寺十一世再重興素山道暉大和尚の慈明忌(十七回忌)法要を厳修致します。焼香師(導師)は長源寺の本寺である養源寺大方丈 田中千春 老大宗師にお勤めして頂きます。

法要中、誦經の際に仏の周圍を右回りに巡って仏を敬礼供養する作法は行道(ぎょうどう)といい、古来より法輪がよどみなく回転する様子を模したもので、最上の供養の儀式とされます。

◎法要では、行道が終わった後、すべての参列者の方々に焼香をして頂きます。

【首座入寺式】

『首座(しゅそ)』とは大勢の修行僧の中にあつての第一人者・首席にあるということで、常に先頭に立って弁道精進して修行に専念する者を意味します。

『首座入寺式』とは一定期間(原則九十日)この寺で大いに修行させていただくことを誓約し、僧堂(修行僧が坐禅・起居を行う伽藍)内での自分の単(たん)席(せき)のことを定めてもらい、堂頭(どうちよう)／住職(じゆく)のことをはじめとする他の和尚様方に御挨拶するための儀式です。

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。